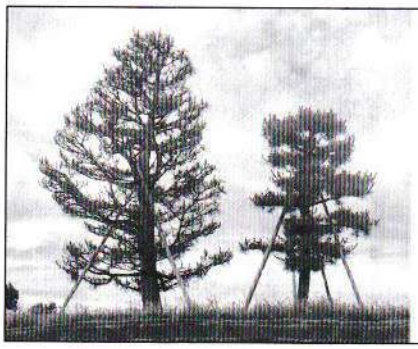

双松会会報

第47号「双松会」通巻51号「松高北高同窓会報」通巻51号
発　行　松江市奥谷町164番地
島根県立松江北高等学校内　双松会事務局　TEL：0852-21-4888
FAX：0852-21-4977
印　刷　有限会社高浜印刷　TEL：0852-36-9100

創立150周年記念事業の成功を願って

会長　櫻井　誠己　高20期

双松会の皆様には平素より本会に対しましてご支援、ご協力を賜り厚く御礼を申しあげます。令和5年7月の幹事総会において、伝統ある双松会の会長を仰せつかりましてから3年目となりました。就任当初より令和8年の創立150周年へ向けての準備を心に浮かべながら参りましたが、愈々本年が記念行事並びに記念事業を実施する年になってまいりました。その間、会員の皆様にはご助言、ご提案等をいただき感謝申しあげます。

昨年の7月の幹事総会において実行委員会を立ち上げ、150周年をどの様な年にしていくのかについての検討を進めてきたところです。

記念行事・記念事業は、現役また未来の生徒の視点をもとに、この150周年を機に母校に誇りを持ち、〝今を育み未来につなげる〟ような、また北高校歌にもある〝世界の人たる　誇りに立たん〟を目指した人財が育つよう、「世界で活躍する為の感性と想像力を育む事ができる学校環境づくり」を基本に置いてまいりました。この様な認識のもとに学校とも協議を行い以下の記念事業を実施し、その為の寄附金を募ることとなりました。

現役生徒と卒業生（双松会）による次世代型教育環境の構築プロジェクトとして

①記念公演として全校生鑑賞による劇団四季〝赤毛のアン〟による感動体験（実施済み）

②北高の歴史整備事業として起雲館（卒業生会館）の整備・修繕　西川津校舎資料室の整備　その他教育振興基金の充実

③北高アートラボプロジェクトとして視聴覚教室、音楽教室、図書室、美術室のリノベーション

以上、記念事業はこの様な内容でありますが中でもアートラボプロジェクトが150周年記念事業としてのメインであります。

つきましては、双松会の会員の皆様には記念事業のための御寄附への協力を切にお願い致すしだいであります。また今年10月31日（土）には記念式典・記念講演並びに記念祝賀会を実施いたします。創立150周年を契機として、母校が更に発展しますよう会員の皆様のご支援、ご協力のほどお願い申しあげます。

記念式典並びに記念祝賀会に於いて沢山の方とお会い出来ることを楽しみにしています。

一人ひとりの小さな偉業

校長　中西　正実

【次の半世紀に向かって】

校長として2年目、創立150周年の大きな節目の年を迎えました。

昨年度の会報において「次の半世紀に向かって多くの卒業生の方々や歴代の先生方が築かれてきた歴史と伝統を大切にしつつ、これからの時代に対応できる人材育成にしっかりと取り組んでまいります。」との言葉を寄せさせていただきました。

その際に触れましたのが、東京に本店を構える老舗和菓子店のお話です。創業500年を数えるその企業は、伝統を重んじつつも時代の変化に応じた風味に仕上げたり海外展開を行ったりと、常に創意工夫と努力を重ねられてきたとのことです。

本校におきましても、これまでの歴史と伝統を大切にしつつ、その上で時代に求められる教育、時代を生き抜ける若者の育成に取り組んでまいりたいと存じます。

【笑福亭笑瓶さんの逸話】

このような思いを胸に、着任当初から私が行なっている小さな取組の一つに、校内を移動するついでに行う窓拭きがあります。少しでも気持ち良くという思いもありますが、事務仕事の多い私にとっては、頭の切り替えや気分転換の良い時間となっています。

ある時、一人の生徒が「どうして窓拭きをしているのですか？」と声をかけてくれました。「空がきれいに見えると気持ちがいいでしょ。」と答えた私でしたが、その時頭の中では落語家の笑福亭笑瓶（しょうへい）さんのことを思い浮かべていました。

笑瓶さんはそのお人柄からテレビの人気者でしたが、2023年に66歳の若さで他界されました。散歩が趣味だった笑瓶さんが密かに楽しみにされていたのが、山道で大昔からそこにあったであろう大きな石を、ほんの少しだけそっと動かす事。それをすると「長年、誰もやらなかった偉業を成し遂げた気分になれて楽しい。」と何かのテレビ番組で話されていたのでした。

【小さな偉業の積み重ね】

思えば、誰にもそれぞれ小さな思い入れや、こだわりがあって、どんな世界もこれら「小さな偉業」が積み上がってできていると私は考えます。つい先般も、訳あって早朝に学校を訪れた際、誰もいないはずの職員玄関で一人黙々と掃除をしている教員に出会いました。私が声をかけると、その教員は「見つかってしまいましたね」と気恥ずかしそうにその場を去って行かれました。

創立150年を誇る本校の歴史も、多くの生徒や教職員、関係の方々の「小さな偉業」の積み重ねで築き上げられてきたのだと思います。これらの遺産を大切に更に磨き上げ、次の方々に受け継いでまいりたいと思います。今後とも皆様の変わらぬご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

青春グラフィティー Vol.24

愉快な仲間たち

普通科35期・理数科14期
細木　明美

５月の爽やかな朝。今朝もしじみ漁の船が、キラキラ光る宍道湖に何艘も出ています。仕事や地域等で背負っている責任が段々と大きく、また重くなってきた私たちにとって、時間に追われ、慌ただしい毎日の中で、フッと肩の力が抜けて、ちょっと笑みを浮かべ、「松江っていいなぁ」と感じさせてくれる、そんな宍道湖の風景。大好きな、いつまでも大切にしたい松江の誇れる風景です。

さて、私たちもとうとう還暦を迎えました。さすがに体力の衰えは感じていますが、そこは気力でカバーして、もう少し現役で頑張ろうかなと思っています。なんせ人生１００年！なんて言う時代になりましたからね。ただし、周囲や社会が許してくれるならの話ですが（笑）

そして、私同様この度めでたく還暦を迎えた、私の何倍も元気で活躍している、一年に何度か集まる愉快な仲間たちがいます。

大手電力会社の支社長やＪＡの地区本部長、ケーブルテレビ会社の社長に、今も市役所の中心で働いている行政マンの二人。ほとんどが私とはクラスも違えば部活も違いますので、高校時代の接点は全くと言っていいほど無く、絶対に話したことのない（と思う）この男性陣の中に、今は同じ北高同級生として毎回仲間に入れてもらっています。

先日もゴールデンウィーク明けに集まりました。彼らが高校時代の話をしても私はほとんどわかりません。クラスの話、部活の話、はたまた中学やら大学の話にまでなったりして、それでも何故か私の知らない彼らの話を聞いているこの時間もとても心地いいのです。

勿論、こうした面々ですので、各々の仕事の話や松江市政の話にもなります。情報を共有したり、意見を交わしたりと、これは言わずもがな貴重で有意義な時間です。帰ってから決まって思うことは「同級生っていいな」ということ。お互い豊かに高め合う。いつでも皆が皆の応援団！そんな関係だと思っています。

同級生といえば、私たち昭和58年度卒業生は、今年１月３日に、お世話いただいた役員の皆さんのおかげで「還暦記念同窓会」の開催が実現し、久しぶりに１５０人を超える同級生が顔を合わせました。限られた時間の中で、話ができた人はそう多くはありませんでしたが、それでも懐かしい友との今昔話や一緒に写真を撮ったりと、会っていない年月を忘れるかのような楽しい時間でした。

そして、４月下旬には、同窓会の残金10万円を松江北高創立１５０周年記念事業に寄附をしたという知らせが入ってきました。学校に訪問し、校長先生に直接お渡しいただいた役員の皆さんには、最後まで本当にお世話になり感謝しています。卒業生として同級生で１５０周年の事業に寄与できることをとても嬉しく思います。ありがとうございました。（写真）

校長室にて

ところで、昨年秋から今年３月末まで、ＮＨＫ朝ドラで小泉八雲と妻セツの物語「ばけばけ」が放送されました。全国から松江が注目され、特に小泉八雲記念館や旧居のある塩見縄手は多くの観光客が訪れるようになりました。とても嬉しい光景ですが、私たち北高卒業生にとっては、多くの観光客が歩く間を縫って、北高生が自転車や徒歩で赤山の校舎に通う姿も含めた塩見縄手の風景こそが、過去の歴史と現代と未来が調和した風景。松江橋北ならではの風物詩。と、ここまで言うとさすがにちょっと大げさかしら（笑）

最後に、この先の人生、どんな事が待っているのかは誰にもわかりませんが、高校時代に何か優れていたこともなく、何かやり遂げたわけでもない私にとっても、あの北高時代は間違いなく今の私に繋がっています。そしてその道はこれからも繋がっていきます。愉快な仲間たちと、時に飲み語らい合いながら、楽しく・・・。

せひご参加ください！

創立150周年記念式典・祝賀会のご案内

期日：令和８年10月31日

【式　典】13時～15時　くにびきメッセ
会　費：3,000円
〈講 演 会〉講師　高村ゆかり氏（34期）
〈記念合唱〉合唱部と卒業生
指　揮：勝部俊行
ピアノ：代　香織

【祝賀会】17時～19時　ホテル一畑
会　費：12,000円

※詳細は双松会のHP上で随時お知らせします。

事務局だより

今年度四月に赴任しました教頭の木村浩太と申します。卒業生でない身にもかかわらず、創立１５０周年という大変に意義深い年に事務局長を仰せつかり、身の引き締まる思いでございます。

さて、今年度の双松会事務局はやはり、「創立１５０周年記念事業に向けた準備」一色となっています。おかげさまで私は多くの卒業生の皆様と接する機会に恵まれましたが、母校に対する皆様の思いの熱いこと熱いこと…そのような熱さに触れるたびに私も大いに刺激を受け、日々の教育活動をよりクオリティの高いものにせねば、と改めて肝に銘じておるところです。

話を「創立１５０周年記念事業」に戻します。昨年の事務局だよりにて説明したように、北高校舎の改築を行うことによる教育環境整備、記念式典・祝賀会の開催、卒業生会館として赤山に建てられた「起雲館」の修繕や西川津校舎跡に建っている記念碑の整備、記念史の作成、北高の縁を守る基金や世界の人たれ北高生基金、松江北高教育後援基金といった各種基金の拡充などを計画しております。

それぞれの内容を充実したものにしていきたいと考えると、「寄附額」がいくら集まるか、は非常に重要なポイントになろうかと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局としては、このようにイベントの実施を考えて頭がいっぱいになりがちですが、一つ忘れてはならないことがあります。それは現在通っている現役の生徒たちのことです。ある時卒業生の方から、「大人が主導して生徒たちが受け身になる１５０周年であってはならない」、と言っていただきました。ありがたいことです。生徒会だけでなく、すべての生徒が自分のこととして１５０周年の意義をとらえられるようにすることで、松江北高での日々の生活に誇りをもって過ごしていけるようになること、この観点を忘れることなく、事務局業務を全うしたいと思います。

寄附金のお礼

６月末時点で、５６２件、１５９２万１０４６円のご寄附を頂いております。厚く御礼申し上げます。

なお、篤志寄附につきましては領収証をお送りしますが、一般寄附につきましては領収証はお送りせず、郵便局（ゆうちょ銀行）の「振替払込請求書兼受領証」またはオンライン上の各種決済システムでの履歴等をもって代えさせていただきます。（領収証が必要な方は双松会事務局までご連絡ください。）また掲載を可とした方に限り、ホームページ上にお名前を載せて御礼に代えさせていただきます。

各期拠出金のお願いについて

７月４日の総会にて、１５０周年記念事業に向けて各期の拠出金を３万円お願いしたいと提案したところ、「もっとしっかり集めなければ」というご意見を頂きました。このことを踏まえ、「各期の拠出金は目標額50万円以上」と変更しお願いすることといたします。各期の幹事様には依頼文書を送付しますので、すべての会員の皆様のご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

同窓会名簿について

次回の名簿「双松」の発刊は、令和９年７月を予定しています。

今回、調査カードを同封しておりますので、ご回答頂きますよう、よろしくお願いいたします。

会報の送付について

郵券代の高騰を踏まえ、次年度以降の会報は「希望者のみ送付」と考えております。同封の名簿調査の確認はがきの文面に「会報が必要な方はチェックをお願いします」という一文がありますので、送付を希望される方は必ずチェックを入れてはがきをご返送ください。

令和８年度双松会幹事総会報告

７月４日（土）サンラポーむらくもにて「令和８年度双松会幹事総会兼１５０周年記念事業実行委員会総会」が開催された。約50名の幹事が出席し、14時半から２時間に及ぶ審議を行った結果、全て承認された。

【議題】

1. 令和７年度会務報告
2. 令和７年度決算報告
3. 監査報告
4. 令和８年度会務計画（案）
5. 令和８年度会計予算（案）
6. 令和８年度双松会幹事（案）
7. １５０周年記念事業（案）

【報告】

名簿、会報、ＨＰについて

令和８年度双松会役員・常任幹事

顧　問　庄司　肇（高11期）　金津　任紀（高16期）

（１５０周年実行委員）

会　長　櫻井　誠己（高20期）
副会長　金平　憲（高16期）　庄司　尚史（高23期）　吉岡佐和子（高36期）
会長補佐　中西　正実（北高校長）　勝部　昌幸（高21期）　河原　一朗（高23期）
幹事長　泉　雄二郎（高26期）
副幹事長　小山　理久（高28期）　景山　直親（高31期）　糸川　孝一（高31期）　石原俊太郎（高35期）
監　事　西村　康（高20期）　杉原　伸治（高30期）
常任幹事　吉金　隆（高19期）　松田　龍志（高21期）　西尾　俊也（高22期）　玄行　登（高23期）　永井　隆（高26期）　皆美　佳邦（高27期）　岡本　隆志（高28期）　長崎　悦子（高29期）　林原　幹治（高29期）　鵜鶏　順（高29期）　藤井　徹（高29期）　貴谷　紘行（高31期）　石倉　弘文（高31期）　馬庭　伸行（高34期）　金井　寿彦（高34期）　細木　明美（高35期）　田邊　真司（高36期）　高浜　澄子（高36期）　岩本　雅之（高38期）　伊藤　尚子（高40期）　木村俊一郎（高43期）　奥辻　雅教（高46期）　野津　良幸（高47期）　肥後　淳平（高47期）　田部長右衛門（高49期）　並河　元（高49期）

事務局長　木村　浩太（北高教頭）新
副事務局長　佐々木玲子（高42期　教頭）

訃報

永らく双松会にご尽力いただきました顧問の松本幹彦氏が令和８年３月に逝去されました。ご冥福をお祈りいたします。

令和７年度　双松会会計決算書

収入総額　6,727,320
支出総額　4,561,519
差引残高　1,665,801　次年度へ繰越

【収入】

費目	予算額	決算額	増減(△)	備考
入会金	1,821,600	1,817,400	△ 4,200	延べ 9,087名×@200
繰越金	2,304,555	2,304,555	0	前年度繰越
繰入金	2,000,000	2,000,000	0	双松会創設会会計より
名簿売上金	0	5,000	5,000	名簿1冊（現金）追加
寄付金	0	95,207	95,207	令和7年分（普通料76冊 団動料55冊）より
雑収入	845	5,158	4,313	預金利息、十年史1冊
合　計	6,127,000	6,227,320	100,320	

【支出】

費目	予算額	決算額	残額(△)	備考
会報発行費	3,500,000	3,013,558	486,442	会報・総会書の印刷、発送代（20,216通）
記念品費	350,000	303,900	46,100	卒業記念アルバム　クリアファイル代
旅　費	800,000	736,850	63,150	各地総会への役員派遣、150周年事業用務
会議費	300,000	273,792	26,208	役員会・実行部事会・幹事総会、150実行委員会
人件費	100,000	10,000	90,000	双松会資料室の整備
整備費	100,000	0	100,000	
通信事務費	100,000	61,060	38,940	各会議の案内状・資料等送付代
雑　費	30,000	38,730	△ 8,730	生花・香典・弔電代
予備費	827,000	86,129	740,871	150周年事業関係経費（収入印紙・お土産代他）
合　計	6,127,000	4,561,519	1,565,481	

監査報告

令和７年度双松会会計について、帳簿・証拠書類等を査閲した結果、適切に処理されていることを報告します。

令和８年　6/14　西村　康　　令和８年　6/14　杉原伸治

令和８年度　双松会会計予算書（案）

【収入】

費目	本年度予算	昨年度予算	増減(△)	備考
入会金	1,720,800	1,821,600	△ 100,800	@200×717名×12ヶ月
繰越金	1,648,801	2,304,555	△ 655,754	令和７年度からの繰越金
繰入金	1,064,423	2,000,000	△ 935,577	双松会創設会会計より
名簿売上金	0	0	0	
寄付金	0	0	0	
雑収入	6,976	845	6,131	預金利息等
合　計	6,460,000	6,127,000	△ 1,667,000	

【支出】

費目	本年度予算	昨年度予算	増減(△)	備考
会報発行費	2,500,000	3,500,000	△ 1,000,000	会報の印刷・発送代
記念品費	350,000	350,000	0	卒業記念品代
旅　費	800,000	800,000	0	各地総会への役員派遣旅費
会議費	300,000	300,000	0	役員会・実行部事会・幹事総会開催費
人件費	50,000	100,000	△ 50,000	双松会資料室の管理・整備
整備費	50,000	100,000	△ 50,000	備品・消耗品等の購入
通信事務費	100,000	100,000	0	各会議の案内状・資料送付代
雑　費	50,000	50,000	0	慶弔費等
予備費	260,000	827,000	△ 567,000	
合　計	4,460,000	6,127,000	△ 1,667,000	

特集

ヘルン先生の英語教育

NHKの朝の連続テレビ小説「ばけばけ」の「ヘブン先生」のモデルとなった小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）は、明治二三年から二四年にかけて、松江中学と松江師範学校で教鞭をとりました。本特集では、松江中学における「ヘルン先生」の英語教育について、松江中学英語科編『旧師小泉八雲先生を語る　座談会』（一九四〇年）を基に紹介します。

＊以下、『座談会』からの引用・参照箇所は頁数のみ記す。

ヘルンが担当していた英語の授業は、「読方」「英作文」「会話」「書取」の四つであったようです。以下、それぞれについて詳しくみてみたいと思います。

「読方」とは、いわゆるリーディングのことです。用いられていた教科書については、「ロイヤル第四読本」（*The Royal Readers*）や「クライブ及びヘイスティングス伝」（Thomas Badington Macaulay著 *Sir John Malcolm's Life of Lord Clive* および *Warren Hastings*）、「スキントンの三」（William Swinton, *Swinton's Third Reader*）などへの言及がみられます。これらは西田千太郎が教授した「訳読」でも用いられていたものであるようです（二五、五一、五七頁）。西田は、「ばけばけ」の錦織友一のモデルとなった人物です。その西田の履歴書に基づくと、彼が、明治二一年八月から少なくとも明治二六年までの期間に二～五年生向けに教授していた「英語解釈」では、「ロヤル四五六読本」や「クライヴ」「ヘスチングス」のほか、「アービング氏スケッチブック」（Washington Irving, *The Sketch-Book of Geoffrey Crayon, gent.*）や「ゴールドスミス氏ビーカー」（Oliver Goldsmith, *The Vicar of Wakefield*）といった教科書が用いられたことがわかります（『百年史』二八六頁）。生徒の立場に立ってみれば、西田の「英語解釈」あるいは「訳読」の授業で日本語の意味をすでに教わっている本をヘルンの「読方」の授業で読むことになりますから、比較的簡単な授業だったのかもしれません。

ここで用いられていた教科書は、丸屋善七店（現在の丸善雄松堂）や東京同盟出版書肆などが明治一〇年代後半から東京大学向けに出版していたものであろうと思われます（川戸　一九九四、一九九七）。現代の英語の教科書とは異なり、選定や入手にも一方ならぬ苦労があったことでしょう。現在の学校教育もそういった努力の上に成り立っているということが、改めて感じられます。

続いて、「英作文」の授業では、「宍道湖」や「神道」、「酒」といったテーマの自由英作文が課されていたようです（二九、五一頁）。生徒の英作文に対してヘルンが抱いた印象については、『知られぬ日本の面影』所収の「英語教師の日記から」によって知ることができますが、『座談会』からは、非常に熱心な指導の様子をうかがい知ることができます。たとえば、生徒の英作文を吟味するときに「一寸位の厚さの本」（辞書）で語源を調べたり、赤字で丁寧に添削されたりしたことが印象的に語られています（二七、二九、五一頁）。

「会話」の授業の様子からは、少し意外な側面もうかがわれます。たとえば、ヘルンが生徒一人ひとりの名前を呼んで話しかけても、生徒の多くは「アイ、カンノット、アンダースタンド」（I cannot understand.）などと言ってお辞儀をするだけで私語をし始める有様であったようです（四八頁）。そうして教室が騒がしくなると、ヘルンは眼鏡をかけ、鉛筆で教卓をコツコツと打って、Boysと呼びかけて注意するのが常であったとか（四九、五四、五九、八一頁）。今も昔も、英語を話すことは生徒にとって難しいことであるのかもしれません。

最後に、「書取」とは、いわゆるディクテーションのことです。ヘルンが英文を読み上げ、それを生徒が書き取るというものであったようです。驚くべきことに、書き取らせる文章をヘルンは諳んじており、本や原稿を持つことはなかったといいます（五六頁）。そうして読み上げられた英文を、指名された生徒が黒板に書き取るのですが、特に、rとlを間違えるとヘルンは声を変えて一声大きな声を上げたといいます（三八頁）。その声で、生徒は自分が間違っていることに気づくというわけです。

書き取らせる英文は、竹取物語や講談などの英訳であることもあり、生徒が話の筋を知っているものを選んだと思われます（五一―五二頁）。たとえば、最初の書き取りの題材はCrow's Conversationというものであったようです（五六頁）。ヘルンの就職を斡旋したB・H・チェンバレンが日本語学習者向けにつくった *Romanized Japanese Reader* の第二二課は *Karasu no Kaiwa* というものですが、ここから着想を得たものであるのかもしれません。

『座談会』にはほかにも興味深い記述が豊富にみられます。たとえば、黒板に描く絵がとてもうまく、チョークを人差し指と中指の間に挟んで手早く描いたり、生徒の方を向きながら書いたりすることも容易かった（三八―三九頁）といったエピソードは、文豪・小泉八雲からはおよそ想像のつかない、教師・ヘルン先生の姿ではないでしょうか。また、「意訳体の良訳」を好まず、就中イディオムを用いたものは大嫌いで、生徒の直訳あるいは逐語訳を好んだ（六四―六五頁）というエピソードからは、英文の意味を正しく解することをヘルンがいかに重視していたかを示しているのかもしれません。

参考文献

川戸道昭（一九九四）「明治時代の英語副読本（Ⅰ）」『英学史研究』二七、八九―一〇六

川戸道昭（一九九七）「明治時代の英語副読本（Ⅱ）」『英学史研究』三〇、七三―九一

島根縣立松江中學校英語科編（一九四〇）『舊師小泉八雲先生を語る　座談会』

松江北高等学校百年史編集委員会編（一九七六）『松江北高等学校百年史』島根県立松江北高等学校

双松会地区だより

東京双松会

東京双松会　事務局長
森岡　正士（高31期）

昨年の第70回総会は、来賓も含めて113名が参加する盛況となりました。小泉凡氏（小泉八雲記念館長）の講演は、朝ドラ「ばけばけ」が始まったばかりのタイミングもあり、大変興味をもって聴かせてもらいました。

2024年春の選抜甲子園で国歌を斉唱した門脇早紀さん（2024年卒）にはピアノ伴奏の門脇勇樹さん（2019年卒）と兄妹ユニットで、美声を披露して頂きました。

新しい取組として「会員アビールタイム」を通じ、若手会員の活動状況を報告してもらうと共に、日比谷しまね館のご協力の下、空くじ無しで「福引大会」を開催致しました。

今年の第71回総会は11月14日（土）12：00から昨年と同じ内幸町の日本プレスセンター10Fレストラン・アラスカにて開催する予定です。映画「Railways」で著名な錦織良成監督に講演をして頂き、門脇早紀さんには好評につき連続出演してもらい、松江市出身の吉田サハラさんのピアノ伴奏を予定しています。

松江北高校150周年寄附金については、東京双松会の会員に対し毛利会長の添え文をつけて配布してご協力をお願いしています。来年度から会員連絡の郵送を廃止しており、QRコードからのメールアドレス登録にご協力の声かけを続けています。

事務局：
中央印刷事務器株式会社
住所：〒102-0084
東京都千代田区二番町11-3
電話：03-3265-4858

近畿双松会

近畿双松会　事務局長
宍道　弘志（高31期）

昨年11月に開催された近畿双松会総会では、毎年恒例の講演会に代えて、櫻井会長、中西校長、武藤教頭から北高の現況と150周年記念についてのお話を伺いました。例年、校長先生にご出席いただき、北高のことをお話しいただくのですが、時間が限られて詳しいお話が聞けないという声があり、150周年を前に充分に時間をとって、お話を伺う機会を設けようと実施したものです。赤山移転から半世紀近く経ち、建物も各所の改修が必要な時期に来ている印象をもちました。150周年関連で検討されている教育環境整備に期待したいと思います。なお、今年の総会は11月28日（土）に開催予定です。

同好会諸行事としては、昨年度も落語鑑賞会、宝塚歌劇鑑賞会、文楽鑑賞会を通常通り開催しましたが、残念ながらハイキングは雨天のため中止となりました。今年もこれら諸行事を開催予定ですので、その時期になりましたらホームページ等でご案内します。近畿以外の方もタイミングが合えば、ぜひご参加ください。

これからも情報を逐次、ホームページ、メールマガジン、LINE@で発信していきますので、ご注目をお願いします。メールマガジン、LINE@の受信手続きはホームページから登録できます。

お問い合わせ先：
専用アドレス：
master@kinki-soushoukai.org

近畿双松会ホームページ：
http://www.kinki-soushoukai.org/
QRからもアクセスください。

「メールマガジン」登録：
QR、ホームページ、専用アドレスからメールアドレスを登録ください。
専用アドレス：
kinkisoushoukai-net@kinki-soushoukai.org

「LINE@」登録：
QRからお名前、卒業期を登録ください。

近畿双松会ホームページ

「メールマガジン」登録

米子双松会

米子双松会　事務局長
中西　秀夫（高15期）

3月15日、双松会景山幹事長、松江北高校中西校長を迎えて総会を開催しました。松江市で身体外専門院を開院されている乾薫氏にカイロプラクティクについて実技を含めて講義いただきました。

納涼会は7月12日、米子市在住の有村玲央・遥香さん夫妻によるハープ演奏を聴きながらフレンチを食し開催する予定です。

ゴルフ部会は毎月大山周辺ゴルフ場にてコンペを開催します。

旅行部会は10月31日の松江北高校創立150周年記念式典へ参加する予定で計画中です。米子双松会も高齢化と各種行事への参加減少が進んでいます。楽しく賑やかな米子双松会になるよう、米子市周辺にお住まいの方、勤務されている方の入会をお待ちしています。

連絡先
米子双松会事務局　中西秀夫
〒689-3402
米子市淀江町淀江771
TEL&FAX
0859-56-2315

広島双松会

広島双松会　幹事長
渡部　賢（高36期）

本会は慣例として毎年11月の第二土曜日に総会・懇親会を開催しております。令和7年度も、母校、双松会本部からご来賓をお迎えし、広島市中心部にあるTKPガーデンシティPREMIUM広島駅北口にて開催いたしました。30余名の同窓生が久しぶりに再会し、楽しい時間を過ごすことができました。令和8年度も、より多くの方にご参加いただけるよう、幹事団一同意気込み、次のとおり企画しております。本会報をご覧いただいた広島在住の皆さまのご参加を心よりお待ち致しております。

今後の予定
11月14日（土）
総会・懇親会
（詳細は調整中）

お問い合わせ先：
広島双松会 幹事長 渡部　賢
〒733-0876
広島市西区高須台3-6-10
TEL&FAX
082-273-8204
e-mail
rskpapa2002@sky.megaegg.ne.jp

通信制双松会

通信制双松会　会長　伊東　健治

総会、懇親会の御案内

日時　令和8年10月18日（日）
　午後2時より
場所　サンラポーむらくも
☎0852(21)2670
会費　7500円

参加申し込みは、住所、氏名、電話番号、卒業年を記入してはがきで令和8年9月末日までに左記へ申し込んでください。

多数の参加をお待ちしております。

送付先
〒699-0622
出雲市斐川町名島2-1
伊東健治　宛
（連絡先）
☎090(7136)8190

各期だより

「喜寿記念同窓会」を終えて、十九期同窓会事務局・吉金隆

私たち新制十九期（北高四三年卒）は、五八八名卒業致しております。私たちの同窓会は昭和五六（一九八一）年三十一歳時を第一回に概ね五年毎として昨年に九回目を喜寿記念として開催いたしました。参加者は最大時の半数以下の七十二名でしたが、全国各地からご参集いただきました。二次会には半数が参加されましたが、さすがに三次会四次会などの声は聞こえてまいりませんでした。

全国に広がっている同窓生の輪をしみじみと感じたところです。東京の新橋駅ＳＬから一分の処に「有薫酒造・新橋店」があり全国三千五百校以上の高校別の寄せ書きノートがございます。上京していた頃には仲間を誘ったり松江出身の若手官僚に紹介し、同期の友人の記帳を楽しんだり知り合いの名前に反応したりしておりました。勝部昌幸元校長先生には現職の折に寄稿お願いし暖簾もくぐっていただきました。金津任紀前双松会会長は北高のノートを黙々とご覧になっていました。友人の中には上京時の昼食に立ち寄る人もいます。小さな同窓会に出席した感じになります、情報です。

なお、些少ではございますが十九期一同として双松会へ末永い発展を祈念してご寄付させていただきました。（金二十万円也）

北高生の活躍

島根県高等学校総合体育大会

男女総合6位（男子総合9位）（女子総合6位）

5月下旬から6月上旬にかけて第64回島根県高等学校総合体育大会が行われました。各部熱戦を繰り広げた結果、男女総合（Aグループ）第6位となりました。各部それぞれ目標に向かい、全力を尽くしました。主な大会結果と上位大会への進出を紹介したいと思います。

○陸上競技
男子　走幅跳　4位　戸谷健慈
　100m　5位　戸谷健慈
　走高跳　5位　松尾大悟
　800m　5位　野津颯志
　1600mR　4位
　（奥名・戸谷・糸賀・野津）
【以上中国大会出場】
女子　100m　3位　谷村一葉
　200m　4位　谷村一葉
　400m　3位　谷村一葉
【以上中国大会出場】

○男子バスケットボール
2回戦　松江北81-42邇摩
準々決勝　松江北62-58明誠
準決勝　松江北58-78松江東
3位決定戦　松江北83-48出雲工
【中国大会出場】

○女子バスケットボール
1回戦　松江北79-43益田
2回戦　松江北38-80松徳学院
【ベスト16】

○男子バレーボール
1回戦　松江北1-2大社

○女子バレーボール
2回戦　松江北2-0津和野
3回戦　松江北0-2松江商
【ベスト16】

○サッカー
1回戦　松江北3-3大田(PK3-5)

○ボート
男子シングルスカル　4位　山田晃輔
男子ダブルスカル　2位（重谷・高田）
　3位（安部・橘）
女子シングルスカル　1位　三井颯花
【全国総体出場】
3位　小原聡美
舵手付クオドルプル
　1位（青戸・岡・市場・金津）
【全国総体出場】

○水泳
男子
　50m自由形　1位　白築宏規
　100m自由形　1位　白築宏規
　200m自由形　7位　田中瑛登
　100m背泳ぎ　7位　田中瑛登
　100mバタフライ　1位　杉浦亘
　（大会新）
【以上中国大会出場】
女子
　50m自由形　7位　中井梨華
　200m自由形　1位　高野和
　400m自由形　2位　高野和
　100m平泳ぎ　2位　中井梨華
　200m個人M　2位　田中夏歩
　400m個人M　2位　田中夏歩
【以上中国大会出場】

○柔道
男子73kg級　ベスト8　花本蒼

○剣道部
個人戦ベスト32　横辻倫太郎

○レスリング
男子51kg級　棄権　高村誇雄紀郎

○登山
男子　1位（萬治・加藤・金坂・石井）
女子　1位（塩野・坪倉・三代・野津）
【以上全国総体出場】

○男子ソフトテニス
団体
1回戦　松江北3-0松江高専
2回戦　松江北2-0江津工
準々決勝　松江北0-2出雲北陵
【ベスト8】

○女子ソフトテニス
個人　準々決勝
桑谷仁実・金山千紘
4-2出雲北陵ペア
準決勝
桑谷・金山1-4出雲北陵ペア
【全国総体・中国大会出場】

○バドミントン
団体
1回戦　松江北0-3松江南
2回戦　松江北1-3出雲商
個人D（男子）
ベスト16　鳥飼逢生・竹下千輝

○剣道
団体
男子2回戦　松江北0-4平田

○男子テニス
団体1回戦
松江北3-0益田翔陽
準々決勝
松江北2-0平田
準決勝
松江北2-0浜田
松江北1-2開星
【中国大会出場】
個人S
6位　井ノ迫陸斗
【中国大会出場】
7位　原圭輔
8位　鈴木寿弥
ベスト16　原健史郎
個人D
準決勝　井ノ迫・鈴木　6-3開星
決勝　井ノ迫・鈴木　1-6開星
【中国大会出場】

○女子テニス
団体1回戦　松江北1-2浜田

○弓道
個人女子（近的12射）3位　岩田紗和（10中）
男子団体予選（近的40射）13中（予選敗退）
女子団体予選（近的40射）18中（準決勝進出）
女子団体決勝（近的80射）40中（2位）

○卓球
益田市民体育館団体男子2回戦
　松江北1-3松江農
女子1回戦　松江北2-3飯南

○野球
【松江地区野球大会】
1回戦　松江北9-0情報科学
　（7回コールド）
2回戦　松江北8-2松江工
準決勝　松江北6-7安来
【ベスト4】

文化部の活躍

○放送部
NHK杯放送コンテスト
ラジオドキュメント部門
創作ラジオドラマ部門
ともに優秀賞

○小倉百人一首かるた部【全国大会出場】
団体戦　2位
松江北　1-4益田
松江北　4-1石見智翠館
個人戦　6位　小谷杏
【全国総文祭出場】

○将棋部
全国高総文祭島根県予選
　男子団体　3位

○囲碁部
第50回全国高等学校総合文化祭
囲碁部門島根県予選
　優勝　村川律斗
　2位　森脇健弘
第50回全国高校囲碁選手権大会島根県予選
　男子団体　優勝
　男子個人戦　優勝　村川律斗
　2位　森脇健弘

○写真部
第53回島根県高等学校写真展
金賞　片岡瞳深
【全国総文祭出場】
銀賞　片岡瞳深
森大温

○箏曲部
【全国総文祭出場】

○自然科学部
【全国総文祭出場】

○弁論大会
【全国総文祭出場】

「世界の人たれ北高生！基金」及び近畿研修の活動報告

○劇団四季・田邊祐真氏来校イベント

令和7年8月8日、本校にて、劇団四季で活躍されている本校卒業生の田邊祐真氏（高66期）をお招きし、来校イベントおよび動画撮影会が開催されました。本イベントは、第一線で活躍する先輩からメッセージを受け取ることで、生徒たちが「自分の夢を追うことの大切さ」を学び、将来の「進路選択の多様性」に対する意識や態度を育むことを目的としています。

当日は、双松会役員や学校関係者に加え、生徒会役員をはじめとする現役生徒とともに、アットホームながらも熱気に満ちた雰囲気の中で行われました。なお、本イベントは劇団四季公演『赤毛のアン』の説明に関する動画撮影も兼ねて実施されました。

イベントでは、公演紹介だけではなく、田邊氏のミュージカルとの出会いや本校在学時の思い出、入団動機などが語られました。その後の質疑応答や意見交換では、現役生からの「高校時代の夢や、その実現のために取り組んだことは何か」といった質問に対し、厳しいプロの世界で培われた経験談やこれからの展望、そして「夢を追い続けることの大切さ」について、具体的なエピソードを交えて丁寧にお話しいただきました。先輩からの力強く温かいメッセージは生徒たちの胸に深く刻まれ、自身の将来を真剣に考える極めて貴重な機会となりました。

○グローバルスタディーズプログラム

令和7年12月23日～27日の5日間、松江北高校の起雲館にて「2025 Global Studies Program」が開催されました。本プログラムは、日本の大学に留学中の海外からの留学生を指導者に迎え、英語のみによるコミュニケーションを通した留学疑似体験により、世界で通用する英語力と表現力、グローバルな視点と発信力を育むことを目的としたものです。

今回は1・2年生計24名が参加し、総合司会と5名の外国人留学生の指導のもと、地産地消やSDGs、将来の目標達成といった多様なテーマに沿って集中的なディスカッションやプレゼンテーションを展開しました。ひたすら英語を発信し続ける5日間となりましたが、参加生徒へのアンケートでは全員が「満足した」と回答し、全員が堂々と修了証を手にしました。

「英語を使う限りどんな発言でも承認する」という理念に支えられ、生徒たちは異文化への理解を深めると同時に、ものおじすることなく自分の意見を発表する力を大きく伸ばしました。最終発表会では、一人ひとりが自らの目標や成果を自信に満ちた表情で堂々と披露し、その姿からは著しい成長と充実感がうかがえました。

○グローバルリーダー養成プログラム

令和8年3月25日～4月1日の日程で、「第11回グローバルリーダー養成プログラム」が実施され、本校の生徒2名を含む15名の高校生がアメリカ・ボストンへ派遣されました。このプログラムは、生徒が自己の在り方や生き方への自覚を深め、価値観を広げ、将来のより良い進路選択を考える貴重な機会となることを目的としています。

研修では、ホームステイを通じて異文化を肌で感じ、ハーバード大学やマサチューセッツ工科大学（MIT）を訪問して、現地の大学生や日本人留学生との交流を深めました。多岐にわたる活動を通じて、生徒たちは実践的な英語力を磨き、グローバルな視点を養いました。

参加した生徒からは「ゲストスピーカーによる講演を聴き、もともと日本の高校の英語教師になるつもりだったが、世界を視野に入れるのも良いなと将来を見つめ直し始めた」という声や、「行く前に比べて学ぶことに対する価値観が一変した。日本の高校生の多くは大学進学を第一目標にしがちだが、アメリカでは『何を学びたいか』を軸に進学を考えていると感じた。これを機に、自分が本当に学びたいことや、そのための選択肢を主体的に考えるようになった」といった大変深い気づきが報告されています。言語の壁を越えてつながる難しさと面白さを実感し、将来の目標を具体化する上で、この研修が生徒たちの多面的な成長を促したことがうかがえます。

○近畿研修報告

令和7年度の近畿研修が10月8日～10日までの3日間、2年生普通科の生徒194名を対象に実施されました。本研修は、生徒たちが自己のあり方・生き方への自覚を深め、価値観を広げ、将来の進路選択について考える機会とすることを目的としています。

初日には大阪市内の各企業を班別に訪問し、実際の働き方や社会の仕組みを学びました。2日目には大阪・関西万博（EXPO2025）を見学し、世界各国の文化や最先端技術に触れることで、視野を「教室から世界へ」と広げる一生に一度の貴重な体験となりました。生徒たちは「外国に行かなくても世界の文化と触れ合えた」「環境問題について考え直すきっかけになった」と、大きな感銘を受けていました。

また、2日目の夜には、近畿地方の大学に在学中の本校卒業生6名を招いた卒業生講話が行われました。今年度はパネルディスカッション形式を採用し、スマホでリアルタイムに質問を送るシステムを導入したことで、例年以上に活発な質疑応答が交わされました。年齢の近い先輩方のリアルな大学生活や受験への姿勢に刺激を受け、生徒からは「今の自分に必要なことを再確認できた」「勉強へのモチベーションが上がった」といった感想が寄せられました。

最終日の体験プログラムでは6つのコースに分かれ、現地ならではの専門的な学びを深めました。万博コースでは、岡本尚子先生（高45期）の丁寧な解説のもとで国立民族学博物館を見学したほか、太陽の塔の内部に入り「生命の樹」を拝観するなど、非常に刺激的な見学となりました。生徒たちは様々な体験を通じて自身の将来について深く考え、大きな成長を実感しながら充実した研修を終えました。

本年度の進路状況

進路部長　大峠　昌裕（理数科23期）

様々なものが紙媒体からインターネットを介した形へ移っており、大学のパンフレットや募集要項もインターネットで確認、大学への出願もインターネット出願である。以前は募集要項を取り寄せて、出願書類に記入して郵送する形式であり、自己採点の結果を見てから取り寄せていたのでは出願締め切りに間に合わない可能性があったため、学校または個人で受験先の候補校すべての募集要項を事前に取り寄せておいたものである。それでも出願校が想定外であった場合には、同級生で持っている人を探したり、時には他校で探してもらったり、急遽出願校まで取りに行ったりしたことが懐かしい。そして２０２６年度入試からは、大学入学共通テストの出願方法も紙出願からＷｅｂ出願へと変更となった。そのため受験票は郵送されて届くものではなく、各受験生が自ら印刷するものとなった。Ｗｅｂ出願となったことにより、出願書類の顔写真の準備、下書きチェックから始まり、検定料の振り込み用紙の記入チェック、清書および検定料の領収書貼付チェック、そして大学入試センターへの送付という職員の負担および責任は軽減された。その分、受験者本人の責任となることが増えた。本校ではＷｅｂ出願登録を学校の授業時間（ＨＲ活動時間）で担任と確認しながら一斉に行うようにしている。それであっても検定料の払い込みが、コンビニエンスストアやクレジット払いであるため、学校では最終登録までできず、後は家庭にお願いする状況であり、期限までに最終登録を不備なく終えることができるかどうかの不安は尽きない。

さて、新課程での２回目の入試となった２０２６年度大学入学共通テストの志願者数は、49万６２３７人であり、昨年に続き増加（前年と比べて１０６６人増）となった。しかし、２０２７年からは18歳人口が毎年のように減少していくと推定されているので、２０２７年度入試から受験者数も減少していくと想定される。国公立大学一般選抜の志願者数は、前期志願者が約１０００人増であったが、中期・後期の志願者合計は前年度と比べて約９０００人減少した。これは、共通テストの平均点が下がった影響もあり、昨年度高倍率であった公立大学を敬遠して諦めたり、国立大学の後期試験の出願を諦めたりした受験生が多かったと推測できる。一方で、私立大学の一般選抜（学校推薦型選抜・総合型選抜等を除く）の志願者数は、前年度と比べて約10％増の約３６０万人と推定されている。これは、国公立大志願者・私立大専願者のいずれの受験生においても出願校数の増加傾向と併願受験費用の軽減や１回の出願で２方式の選抜に登録されるセット出願といった選抜方式の増加が大きな要因となっている。この全国的な傾向は、本校の受験生においても見受けられた。本校生徒の入試結果を振り返ると、国公立大合格者数１７９（前年度＋１）、私立大合格者数３０４（前年度＋38）という結果であった。やはり、共通テストの難化の影響で、国公立大学の出願を諦めた者、出願はしたけれども私立大を合格したために受験しなかった者がいた。その一方で、最後まで受験したが進路目標実現に至らなかったため浪人を選んだ者が約50人いる。受験という経験を乗り越えることで生徒が成長していくことを願っている。合格の内訳としては、東京大学２名、京都大学６名を含めた難関10大学に27名が合格し、医学科には島根大２名、鳥取大５名に加え、山梨大、岐阜大、筑波大、滋賀医科大、岡山大にそれぞれ１名の合計12名が合格した。また、私立大学では早慶上理に27名（本校把握分）が合格した。入学時から学力の高い生徒が多くおり、高い進路目標を持った生徒がお互いに切磋琢磨する仲間を形成して、みんなでがんばっていた結果であると考える。

毎年、多くの生徒が本校を巣立っており、卒業生には世界で活躍する人となって欲しいと思う。しかし、一方でこの立場では、島根県の切実な課題を耳にすることが多く、医師、看護師、薬剤師、獣医師、教師だけでなく、県職員、警察官、消防士、生活のインフラ整備に関わる職業人が不足している状態である。実際に昨年、ある病院では看護師不足のためにワンフロアが閉鎖され、私自身が衝撃を受けた。ＩＴ人材の育成を求められる昨今、世界での日本のおかれている現状を考えると必要なことではあるが、地元島根の現状を考えた場合には様々なことを考える。本校の果たすべき役割として、どのような人材を送り出していくことが日本や島根のためになるのであろうかと考える。

進路状況

令和8年度入試学校種別合格者延べ数及び就職者数（令和8年4月集計）

卒業生	令和6年3月			令和7年3月			令和8年3月		
	現	卒	計	現	卒	計	現	卒	計
国立大学	109	19	128	117	31	148	116	29	145
公立大学	23	5	28	28	3	31	32	2	34
私立大学	226	48	274	217	48	265	212	62	274
海外大学	0	0	0	0	0	0	1	0	1
短期大学	6	0	6	3	0	3	3	0	3
専門学校等	3	0	3	10	0	10	4	1	5
就職	0	0	0	2	0	2	1	0	1
合計	367	72	439	377	82	459	369	94	463
クラス数	7クラス			7クラス			7クラス		

編集後記

「ばけばけ」で脚光を浴び、観光客で賑わう武家屋敷を通り抜け、まだ萌黄色の、そよそよと揺れる木立を横目に母校に足を踏み入れた時、青春時代の様々な面影が浮かんでは消えました。今年度、母校で勤務させていただけることに俸せを感じています。

先日、偶然ラジオで聴いた、ボブ・ディランの「風に吹かれて」。「答えは風の中さ」という曲中のフレーズに、本校の１５０年の遥かなる旅路はどのようなものだったのだろうと古に思いを馳せました。時代を切り拓こうと、国の改革に大胆に舵を切った１５０年前。戦後からも80年が経ち、混沌とした時世に彷徨う今、母校のために力の限りを尽くしたいと改めて感じました。

今年度、本校は１５０周年を迎えます。双松会の皆様のご支援にも改めて感謝申し上げます。今回は昨年度に引き続き、１５０周年記念事業を特集しております。ホームページ等でもご覧になれますので、皆様にもご覧いただき、青春の時に思いを巡らせていただければ幸いです。同時に、生徒が学びや活動に端々しく、しなやかな感性を持って取り組む姿を感じていただければと存じます。

１５０周年という時代（とき）の風に踊りながら、「めぐり逢う明日」に向かって、共に思いをはせ、歩んでいただきたく存じます。双松会の皆様のご多幸をお祈り申し上げます。